



公式サイト

柳川市民文化会館

【開館時間】午前 9 時～午後 10 時、月曜休館
【問い合わせ】☎ 73・7777

水都やながわ information



ヴァイオリン、チェロ、ピアノ TRIO の響き

6月14日
販売開始



元 NHK 首席チェロ奏者である木越洋を中心に、国内外で活躍するトップクラスの奏者が柳川に集結し、ラヴェル、シューベルト、ベートーヴェンの名曲をピアノ・トリオの演奏でお届けします。3 人の名手が奏でる音楽の世界をお楽しみください。

- 日時 10 月 12 日(日)午後 2 時開演(開場は 30 分前)
- 入場料(全席自由) 2000 円
- 前売券販売 6 月 14 日(土) 午前 10 時から市民文化会館で販売開始

【写真左から】八尋祐子(ヴァイオリン)、木越洋(チェロ)、畑瀬由美子(ピアノ)

ロビー de パフォーマンス事業

演劇「ロミーナ&ジュリア」 (伝習館版ロミオとジュリエット)



シェイクスピアの名作「ロミオとジュリエット」を女性同士の恋に置き換えました。ジェンダーを超えて出会った 2 人の恋の物語です。

- 日時 6 月 14 日(土) 午後 2 時開演
- 入場料 無料
- 出演 伝習館高等学校演劇部
- 脚本・演出 日下部 信(九州大谷短期大学)

壇遼ギターとの対話 Vol.2

ギターによる植作文様／中山の大藤～ ギター、笙、コントラバスのための～



柳川ゆかりのギタリスト壇遼さんの「ギターとの対話」3 回シリーズの第 2 回。今回は藤枝守氏が中山の大フジをテーマに作曲した世界初演の新曲を中心に、ギターの新しい魅力をお届けします。

- 日時 9 月 21 日(日) 午後 2 時開演(開場は 30 分前)
- 入場料(全席自由) 4000 円
- 前売券販売 6 月 22 日(日) 午前 10 時から市民文化会館で販売開始

定例
イベント

第 1・3
木曜

リトミックひろば

- 日時・料金・講師 6 月 5 日(木)、19 日(木) ①午前 10 時～②午前 11 時～、1 組 500 円、CHIAKI

第 3
金曜

ロビーコンサート

- 日時・料金 6 月 20 日(金) 午後 7 時～(約 60 分)、無料
- 出演 川野美里(ピアノソロ)

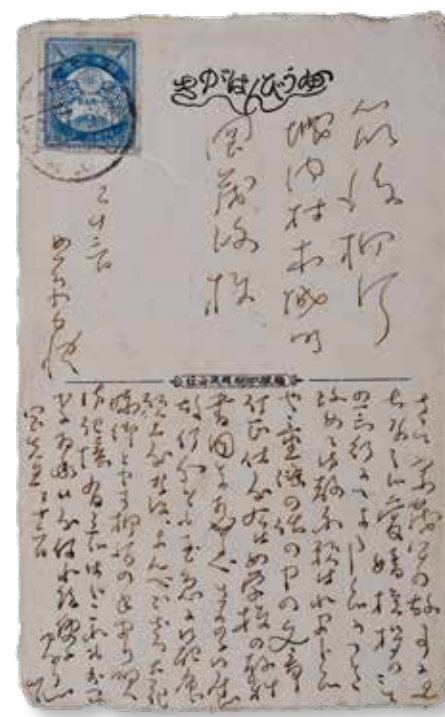
新 市史抄片

No.205

【問】市生涯学習課市史編さん係 ☎ 72・1275)

岡茂政と北原白秋

柳川古文書館長 江島 香



【写真左】2 行目に「愛嬌挨拶」と記載された岡茂政宛ての北原白秋のはがきの表面

【写真右】はがきの裏面(出典:「岡正鑑文書 17」)



柳川の歴史を調べる時に、まず手に取る本の一つが岡茂政が書いた「柳川史話」です。岡は明治 8(1875)年柳川に生まれ、中学伝習館を卒業後、第五高等学校を経て、東京帝国大学に進みます。故あって中退し、明治 36 年 6 月中学伝習館の教諭となりました。教師としての仕事の傍ら、柳川の歴史を研究し、「柳河新報」(明治 36 年発刊)の紙上に成果を発表します。それをまとめたものが「柳川史話」です。柳川古文書館では岡茂政の史料を保管していて、その中に北原白秋が出したはがきが 20 点ほど確認できます。

北原白秋は明治 35 年中学伝習館を休学し、翌年復学後、校内新聞を発刊しました。翌 37 年退学し、上京して早稲田大学高等予科に入学しました。すなわち岡と白秋は中学伝習館の先生と生徒という間柄でした。加えて、白秋と同年で友人だった川野三郎は岡の実弟でした。川野は、柳河町で川野薬局を営んでいた乙次郎の息子で薬剤師でした。昭和 18(1943)年に出版された「多磨 北原白秋追悼号」には、「白秋を偲びて」という一文を寄せています。

岡宛ての白秋のはがきのうち、大半は白秋が大正 7(1918)年から同 15 年まで住んでいた小田原時代のもので、大正 12 年 9 月に起きた関東大震災で、

白秋が住んでいた小田原の家も被災しました。震災の様子を書いたはがきでは「海道一帯全く戦慄状態」と記しています。長女の篁子が生まれた時は、岡が送ったあめがたの御礼を述べています。帰郷の思いをつづったはがきには「懐郷の念常に禁じがたく候へどもあまりに多忙故その機を得ず」(年不明)と記しています。また、昭和 5 年 5 月八幡製鉄所の招きで帰郷した時のはがきは途中で投函されていて、「帰省の念やみがたく八幡の製鉄所の招きを幸に只今西下しつつあります」と記され、到着が待ち遠しい様子がうかがわれます。

こうした岡と白秋のはがきを読んでいると、そのやりとりが親しく頻繁であったことが推測されます。特に注目したいのは、白秋が岡に対して「愛嬌挨拶」についてたずねている事です。これは柳川藩初代藩主立花宗茂の故事にちなんだ柳川の伝統行事ですが、白秋はこのことを岡に質問をして、「お話・日本の童謡」に生かしています。このような二人の関係が白秋の作品の背景となっていることは、大変興味深いことと思われます。この一連のはがきは、7 月 1 日から柳川古文書館で展示します。ぜひご来場ください。

※表記は広報紙のルールで統一しています。